



Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！

プロジェクト
対象 13 県

アディスアベバ

□ オロミア州

オロミア州教育フェスティバル開催

～ Ho! ManaBU (JICA) も表彰！ ～

9 月 20 日・21 日にナザレット市（アジスアベバ市から南東約 100km に位置）のオロミア州庁舎において「教育フェスティバル」が開催されました。昨年度よりスケールアップした今年のフェスティバルでは、展示会会場も設置され、県教育事務所（ZEO）や特別市教育事務所（STEO）の展示と共に、Ho! ManaBU の展示スペースも用意されました。



Ho! ManaBU ブース設定の様子

展示会会場の入り口でテープカットが行われた後、それぞれのブースへ教育関係者が向かい、担当者の説明に耳を傾けました。WEO や STEO のほとんどのブースは、就学率や中途退学率などの統計・グラフを壁に貼っているだけなのに対し、Ho! ManaBU ブースは ITP (Interactive Training Package) 教材をはじめ、英字ニュースレターや投稿雑誌「ODA」、パンフレットなどなど大小様々・色とりどりと、インパクトの強いディスプレイだったため、黒山のような人だかり！他のブースを圧倒していました。せっかくなので、見学者を中途退学ゲームシートの上に立たせて、実際にゲームや討論を体感してもらい、そのおもしろさや研修の優位性を存分にアピールしました。「どうやらこの教材を活用できるのか？」という質問も受け、インパクトの強さをひしひしと感じました。



プロジェクターを使うなど工夫をしている（左写真）のですが、Ho! ManaBU ブース（右写真）の見学者数との差は、一目瞭然！

オロミア州教育局（OEB）と共にオロミア州で活動する USAID（米国国際開発庁）・イタリア開発協力・ユニセフなど他の援助機関のスペースは用意されて



研修教材の説明に食い入る見学者

おらず、Ho! ManaBU のブースを訪れた援助関係者は「来年の教育フェスティバルでは、Ho! ManaBU ブースに負けない展示を目指そう！」と息巻いていました。

2 日目のフェスティバルは、連邦教育省大臣・副大臣両名やオロミア州副大統領などの来賓を迎えて展示会や表彰式が行われました。展示会は、スケジュールの都合で、来賓の方々に詳細を説明する時間は取れませんでした。昼食会に招待された際に、「ODA」やニュースレター・パンフレットを手交し、しっかりアピールすることができました。連邦教育省大臣（昨年も同じ機会にお会いした）からは、「Ho! ManaBU のインプットに心から感謝する」との言葉をいただきました。

さて、昼食前に開催された表彰式は、生放送で放映され、世界的にも有名な歌手アリ・ブラ氏（アメリカでも CD を発売）も参加し「Barnoota (教育)」という歌を熱唱し、ダレジェ OEB 局長をはじめ多くの関係者が彼を取り巻いて踊っていました。が、ダレジェ局長のはしゃぎ方には驚いてしまいました。さらに驚いたことに、優秀な教員・学校・PTA などの表彰に続き、なんと Ho! ManaBU (JICA) の名前も呼ばれて、壇上でトロフィーをいただくという光栄な機会を得ることができました。感謝！感激！



5 月の総選挙以前から、こうして教育関係者が一同に集う機会がなかったので、このフェスティバルを活用して、全 ZEO (17 県)、全 WEO・STEO (約 320 郡・特別市)、パイロット CRC (104 校+衛星校約 600 校) に「ODA 創刊号」を配布しました。その部数はなんと 2 万部！どんな反応や反響があるのかな？ 次号の「ODA」への原稿は投稿してもらえるのかな？ など... ワクワクしながらその結果を待ちたいと思います。

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地或社会に根ざした小学校重営のことです。

新学期が始まりました

～ OEB の本年度にむけての取り組み？ ～

エチオピアには独自の暦があり、9月11日に新年を迎え、新学期も始まりました。といっても、日本のように始業式や入学式が開催され、児童・生徒が初日に全員そろって授業が始まるわけではなく、へき地の学校には10月中旬になっても新入生の登録を行っている学校もあるくらいです・・・さて、新学期開始にあたり、OEBの局長・副局長や課長クラスが集まり、現状・課題の共有や本年度の取り組みなどが協議され、Ho! ManaBU もオブザーバーとして招待され、情報を共有する機会を得ました。

会議では、1) 昨年度のオロミア州の教育統計によると、児童・生徒（8年生・10年生・12年生）の成績が他の州に比較して低いという報告、2) 「2015年までの普遍的初等教育の達成」のために計画されていた新入生の数と比較して、本年度の新学期開始時点での登録数（新入児童数）が少ないという報告、3) オロミア州の小学1年生の中途退学率が年々悪化し、30%になったという報告などがあり、その原因や今後の取り組みについて協議されました。原因分析(?)では「(オロミア州の成績が低いのは) 他の州は教育統計を改ざんしているのでは?」とか「(数年前から報告されているにもかかわらず) 本年度の新入生登録数が低いのは、学校が保護者から登録料としてお金を徴収しているからだ!」など、「それが原因じゃないだろう!」と突っ込みたくなるような意見も散見されました。また、今後の取り組みについても、「調査が必要だ」という意見もありましたが、「WEO や学校への指導強化」という漠然としたものでした。

Ho! ManaBU はこれまでも、学校レベルのモニタリングを通して、「OEB としての中途退学の定義が必要（転出した児童も中途退学、3日休んだら中途退学と思っている校長もいた）」「児童数の報告時期の設定（前述のように、新学期開始の数ヶ月後の児童数を報告する学校もあり、中途退学を測るための基礎情報の時期にばらつきがあるため、例えば新学期開始から1ヵ月目を報告時期に設定するなど）」「フォーマットの作成（学期ごとの転出・転入生を含む児童数の推移が理解できる書式）」といった報告・議論・提案をおこなってきました。

今回の会議を通し、「学校へ赴き、自分の目で現状を把握し、課題の背景を掴み、OEB（政策レベル）での具体的な対応策を考え、他の職員と共有する」ために、プロジェクトのモニタリング活動にOEB職員の同行を積極的に働きかけ、学校レベルの現状を知りうる機会を提供する重要性を再認識させられました。

帰任します！

しんぶん第1号で、デラルトゥ（「花」の意）の名に負けず、プロジェクトに多くの花を咲かせたいと登場してから2年弱。この度、任期を終えて帰国します。

このプロジェクトに赴任するまでは NGO での経験が長く、いろいろと勝手が異なり、戸惑うことの多い日々でした。赴任前の事前評価調査に始まり、二国間（政府対政府）で開発協力を行なうというのはどういうことなのか、「普及展開」を考えると、政策レベルで住民参加を促進するとは、等々、開発協力論に発展しそうな課題もたくさん抱えてきましたし、JICA という大きな組織で仕事をするとはどういうことなのかという、組織論的な課題もたくさんもらいました。異なる世界に飛び出し、異なる人々と出会うことで、こうした多くの貴重な課題をもらえましたが、普段は日常の業務に追われ、課題と向き合うことから程遠い日々でした。もっと向き合っ、もっとぶつかっていれば、もう少しはプロジェクトにとっての「肥料」になれたのではないかと、残念です。

それにしても、この2年間、たくさんのひとりごとをつぶやきました。せっかく雇用したスタッフが、ある日突然、何も言わずに辞めていった日。物価高騰で、全ての物が前回購入時より高くなっている日々。欠陥工事を指摘して修理を依頼すると、「アフリカ人に対する人種差別だ」と言われた日。PC ウイルスで全ての文書が破壊された日。信頼していた業者が最終納期を守らなかった日・・・多くの課題や日常業務に囲まれ、ストレスの中でつぶやきながら、2年間の任期を全うできたのは、共感し信頼することのできるエチオピア人とたくさん出会えたことが大きかったと感じています。業務でも生活でも、常にまわりの人たちの強さと優しさに支えられていました。現時点では学校教育が多くの課題を抱えていても、信頼できる彼らのいるこの国なら、きっと彼らが道を切り拓いていくと、そう感じてきました。プロジェクトが少しでもそのお手伝いをできれば、そして、そこに私が少しでも貢献できればと、そんな思いで2年間を過ごしてきました。そんなエチオピアと出会えたことに、感謝しています。

4年間のプロジェクトも、現在が折り返し地点。花が咲くのはこれからです。どんな花が咲くのか期待しながら、これからは日本からプロジェクトを見守っています。読者のみなさんも、今後ともよろしく願いいたします。



スタッフから贈呈された民族衣装を着て記念写真！